

平成 29 年度事業報告書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー

1. 事業の成果

インドネシアにおけるウミガメ保全事業を継続させ、事業の拡充を行った。現地 NGO である「インドネシアウミガメ研究センター」をカウンターパートとして、ジャワ海の 5 カ所の島において卵買上げや島借上げの手法を用いたタイマイとアオウミガメ卵の保全事業を展開した。保全活動地以外のジャワ海についてもタイマイ生息状況調査をおこなった。西パプア州では地域住民と協働でオサガメのモニタリング調査を実施した。ジェン・ウォモン(旧ジャムルスバメディ)地区のワルマメディ海岸では、海岸所有者と交渉して新規契約を結び、直接海岸に立ち入ることが可能となった。モニタリング調査の内容を充実させた新たな監視体制で、具体的に繁殖数を増加させるための事業を再開させることができた。ジェン・シュアアップ(旧ウエルモン)地区の海岸では、監視員にモニタリング調査を依頼し、個体群動態を把握するため産卵巣数の計数を行った。

日本国内の事業として、東京都小笠原村父島の「小笠原村屏風谷施設(通称:小笠原海洋センター)」の運営管理を小笠原村より受託し、海洋生物の調査研究及び保全事業を遂行した。また、展示施設を利用した教育プログラムも継続して行い、小笠原小学校 5 年生の総合学習事業も継続した。関東沿岸のウミガメ漂着(ストランディング)調査に関しては、行政や関係機関、各地団体や個人と協力して実施した。また、各教育機関での講演の他、各種イベントやシンポジウムへの出展や調査結果のサイト公表を行った。「第 5 回アクションミーティング」を開催し、一般の人に対して情報提供や啓発を行った。ウミガメジョイントブリーディング(小学校や水族館での子ガメ短期育成および子ガメ飼育体験プログラム)を計 3 組織で実施した。各種イベントに参加して活動報告紹介や広報活動を行ったほか、オリジナルグッズの物品販売事業やフェアトレードを実施した。

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する事業【支出額:37,417 千円】

ア. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】ジャワ海西部の 5 つの島(セガマ・ブサール島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、ブナンブン島)では、卵買上げや島借上げ手法を用いたウミガメ卵の実質的な保護の継続を行い、タイマイ 3,620 巣(497,118 卵、2017 年 1-12 月)、アオウミガメを 437 巣(35,853 卵、2017 年 1-12 月)保全することができた。近年稚ガメ生産量を激減させる要因として課題になっていたトカゲ食害の回避策をキマル島とセガマ・ブサール島で実施し、食害率を減少させた。保護活動地以外のタイマイ生息状況を調べるため、産卵海岸の踏査と聞き込み調査をおこなった。西パプア州のジェン・ウォモン地区のワルマメディ海岸では、今年度 6 月に海岸所有者と交渉し、原則として夜間パトロールや移植を禁止する海岸使用の契約を結んだ。これは、オサガメの減少要因と推測された事象を排除することによって現実的にこの海岸のオサガメを増加させるモデルケースとして行うものである。また、調査項目を充実させた新たな監視体制の元、地元監視員によるモニタリング調査(産卵巣の計数)を実施した。その結果、420 巣の産卵巣を確認し、8 月には 32 巣のふ化後調査を行い 79.5%のふ化率、11 月には 17 巣で 69.2%を得た。ジェン・シュアアップ海岸では、モニタリング調査のみを実施し、1088 巣の産卵巣を確認した。

- イオン環境財団助成事業（一部）
- 地球環境日本基金（一部）
- 国際資源評価等推進補助事業（一部）

【日時】平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】ジャワ海西部（セガマ・ブサール島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、プナンブン島など）、西パプア州（ジェン・ウォモン地区、ジェン・シュアツプ地区）

【従事者人員】5 人

【対象】ジャワ海西部地域の住民（40～60 名）、海洋漁業省ソロン支局、タンブロウ政府、西パプア州地区住民（1,000 人）

イ. 小笠原諸島におけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】小笠原諸島においてアオウミガメの産卵巣モニタリング調査及び標識放流調査、ふ化率調査、人工ふ化放流、短期育成を実施した。父島市街地に隣接する大村海岸では産卵時期に合わせてパトロールを行い、また、帰海できなくなった母ガメの保護も行った。食用捕獲されたメスガメの体内から採取された体内卵のふ化事業を新規開始し、外部研究者と共同研究を積極的に実施した。

- 三井物産環境基金助成事業（一部）
- 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業（一部）

【日時】平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】小笠原諸島

【従事者人数】人

【対象】島民（約 2,700 人）、一般(不特定多数)

ウ. 日本沿岸におけるウミガメ生息・漂着調査事業

【内容】関東沿岸（茨城県、千葉県、神奈川県）のウミガメ漂着（ストランディング）調査および定置網におけるウミガメ混獲調査を実施した。また、宮城県からもウミガメ漂着情報を収集した。帯広畜産大学家畜病理学教室の協力により、混獲個体および漂着個体の病理診断を開始した。

- アカウミガメ上腕骨・筋組織採取受託事業（一部）
- 館山市自然環境保全活動団体支援事業（一部）

【日時】平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、宮城県

【従事者人員】4 人

【対象】各地団体及び個人（サーファー、カヤッカー等）、行政関係者、漁業関係者など約 200 人

エ. 小笠原諸島におけるザトウクジラ調査事業

【内容】小笠原諸島周辺海域に來遊するザトウクジラの社会構造を解明するため、過去に収集したデータの整理を行った。また、小笠原フィリピン間で來遊するザトウクジラの関連性を調査するためフィリピンの関係団体と共同研究を実施し、マリアナ海域の個体識別に関して、新たに NOAA（アメリカ海洋大気庁）と共同研究を実施することで合意した。

【日時】平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】東京都小笠原村父島及び母島、聳島の各列島

【従事者人員】 10 人

【対象】 島民（約 2,700 人）

オ. サンゴ調査事業

【内容】 父島二見港におけるサンゴ群落に関する知見を得るため、産卵時期の確認とサンゴの生息状況について、島民及び研究者と情報交換を行った。

【日時】 平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】 東京都小笠原村父島

【従事者人員】 3 人

【対象】 島民（約 2,700 人）

② 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する人材の育成事業【支出額:3,504 千円】

ア. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全に関する人材育成事業

【内容】 インドネシア現地カウンターパートである「インドネシアウミガメ研究センター」のスタッフや各保護事業実施地域の監視員に対して調査技術の指導を行った。

【日時】 平成 29 年 5-6 月、8-9 月、10-11 月、平成 30 年 1-3 月

【場所】 ジャワ海西部（セガマ・ブサル島、プスムット島、モンペラン島、キマル島、プナンブン島、スルマル島など）、西パプア州（ジェン・ウォモン地区、ジェン・シュアップ地区）

【従事者人員】 4 人

【対象】 ジャワ海西部の地域住民（30～50 名）、西パプア州のオサガメ監視員及び地域住民（20 人）

イ. ボランティア、インターン及び研修生の受け入れ及び指導事業

【内容】 海洋生物の調査や保全に関して興味がある人々を一般から広く受け入れ、知見を広める場を提供するほか、海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを行った。

【日時】 平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】 東京都小笠原村父島、神奈川県横浜市

【従事者人員】 9 人

【対象】 一般

③ 海洋生物及び自然環境に関する情報提供、普及啓発の事業【支出額:9,017 千円】

ア. 小笠原村屏風谷施設の運営管理事業

【内容】 小笠原村より運営管理を委託された「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」を利用し、海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を島民や来島者に対して行う。

● 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業（一部）

● 小笠原海洋センター運營業務受託事業（一部）

【日時】 平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】 東京都小笠原村（当団体小笠原事業所）

【従事者人員】 6 人

【対象】 島民及び来島者

イ. 教育啓発・エコツーリズム事業

【内容】小笠原小学校の生徒に対して週1回の総合学習を通しウミガメに関する教育・啓蒙を行うほか、島民や来島者に対して海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を行った。海洋生物保全と地域経済活性化の両立させることを目的にエコツーリズム基盤を構築した。

【日時】平成29年4月1日～平成30年3月31日

【場所】東京都小笠原村父島

【従事者人員】6人

【対象】一般

ウ. ウミガメジョイントブリーディング（子ガメ短期育成および飼育体験学習）

【内容】参加条件を大幅に見直し、参加規約の変更を行った。ヨコハマおもしろ水族館、さとえ学園小学校、学校法人シモゾノ学園（国際動物専門学校）の3組織にて子ガメ短期育成と飼育体験を通じた教育・啓発活動を実施した。学校法人シモゾノ学園（国際動物専門学校）では、学生に対して、子ガメに短期育成に関連したウミガメ講演を行った。

【日時】平成29年4月1日から平成30年3月31日

【場所】埼玉県、神奈川県、東京都

【従事者人員】9人

【対象】小学生1,000人、専門学校生500人、一般

エ. WEBサイトによる情報発信事業

【内容】エバーラスティング・ネイチャーの活動理念や目的、インドネシアや国内での活動成果を一般に広く公開するために、ホームページにおいて情報の発信を行った。Facebookやtwitter、メールマガジンと連携して広報をおこなった。

【日時】平成29年4月1日から平成30年3月31日

【場所】神奈川県横浜市（当団体横浜事業所）、東京都小笠原村（当団体小笠原事業所）

【従事者人員】8人

【対象】一般

オ. イベント開催・講演会・学会などに関連する事業

【内容】ウミガメやクジラ、サンゴに関するイベント開催や環境関連の各種イベント出展のほか、講演会を主催し、活動の紹介や海洋生物の普及啓発を行った。今年度は新たにウミガメに関するミニ講演「カメベン」を企画し、年4回実施した。また、各種の講演会や学会、検討会に出席・発表し、専門誌「海洋と生物」への寄稿を行った。国際会議では口頭・ポスター発表のほか、特別講演 Beyond the protection にパネリストとして登壇した。

【日時】平成29年4月（国際ウミガメ会議、アースデイ東京）、7月（館山ビーチマーケット、カメベン）、9月（カメベン）、10月（グローバルフェスタ）、11月（カメ DE Show、カメベン）、平成30年1月（アクションミーティング、東京海洋大学うみがめ研究会ゼミ）、2月（国際ウミガメ会議、カメベン）、3月（国際資源評価事業混獲生物サブユニット推進検討会、2017年度小笠原ウミガメ報告会）。

「海洋と生物」への寄稿：通年

【場所】千葉県、東京都、神奈川県、兵庫県、Las Vegas, USA

【従事者人員】 9人

【対象】 一般、高校生、学会員

(2) その他の事業

① 物品販売

【内容】「小笠原村屏風谷施設（小笠原海洋センター）」の展示館や「ELNA ショップ（エバーラスティング・ネイチャーのWEBサイトでのネット販売）」、各種イベントにおいて物品の販売を行った。広報の一助を担う ELNA カレンダーのほか、新しいオリジナルTシャツも販売し、好評を得た。インドネシアのウミガメ保全事業地住民が製作した民芸品などのフェアトレードも実施した。

【日時】平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

【場所】東京都小笠原村（当団体小笠原事業所）、神奈川県横浜市（当団体横浜事業所）、インドネシア

【従事者人員】 20 人

【対象】 会員及び一般消費者